

<アイデアのねらい>

鑑賞に関する資質・能力の活用・発揮を促しながら、小さな人形「すきまくん」や「切り抜きカード」を用いて鑑賞することで、身近な場所の形や色などと豊かに関わる態度を育てる。

<授業の展開例>

○鑑賞に用いる教材をつくる。（例「すきまくん」「切り抜きカード」）



○「すきまくん」や「切り抜きカード」をもって教室や学校の中を巡り、気に入った形や色、場所を見付ける。

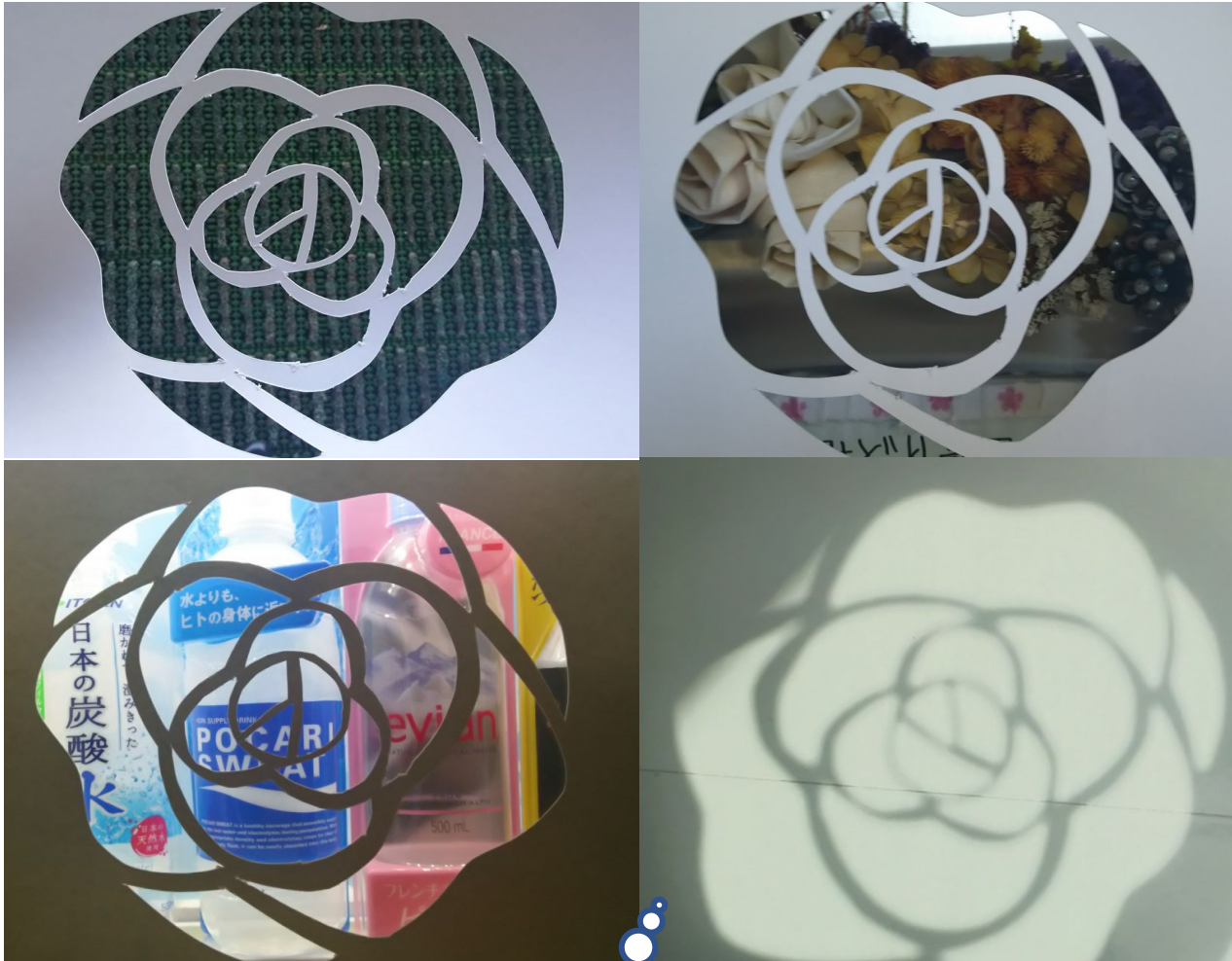


○見つけた形や色、場所について友達と交流する。



身近な場所の形や色などと豊かに関わる態度を育成

<講座の様子>



切り抜いた画用紙をいろいろな場所や物に当てて見ると、これまで気付かなかった生活の中の色や形に気付くことができたよ。

<講座の様子>



小さな人形「すきまくん」をいろいろな場所に置いて、面白い形やすてきな色を発見。みんなに教えたいな。

<講座の様子>



冒険の相棒
「すきまくん」

<留意点>

導入で「身の回りの形や色の面白さを発見しにいこう」と提案します。鑑賞のための教材づくりから始めることが、活動の必然性を高めます。

鑑賞の活動では、教材を手に校内を巡り、興味をもった場所に置いたり、何かと組み合わせたりしながら見ることを楽しみます。写真を撮るなど記録しておくといでしょう。

終末では、見つけた形や色などの面白さについて交流します。教師は児童の発表を造形的な視点を基に価値付けることを大切にしましょう。



＜受講者の感想＞

- 鑑賞に用いる教材があると、鑑賞の視点をもつことができ、活動の必然性も高まると思いました。子どもたちがより主体的に取り組むことで資質・能力の活用・発揮の効果が上がると思います。

＜実際に授業を行った受講者から＞

- 小3で「すきまくん・・・」を行いました。教室掲示の写真を花畑に見立ててタンポポの綿毛で飛んでいるところをつくったり、図工室の絵の乾燥台にひもをつけて「崖登り」の場面をつくっている児童もいました。鑑賞活動から表現の活動に発展し、身近な場所の形や色などと豊かに関わる姿が見られました。

